# チャプレンだより 10

2025 年 1 月号

チャプレン　主教アンデレ大畑喜道

**今月の聖句**
**あなたの信仰があなたを救った**

**マルコによる福音書 10 章 52**

4 月からチャプレンとして赴任し、また 11 月からは園長として働かさせていただいています。子どもたちがのびのびと自由に様々な経験をしながら多くの発見をし、学んでいけるように今年も全力を尽くしたいと思っています。保護者の皆様にもご協力をよろしくお願いします。また何かご意見や要望などがありましたら遠慮なくおはなしください。クリスマスシーズンは 1 月 6 日まで続きました。この日に博士がやってきたということを祝いクリスマスの行事が終わります。ですからクリスマスの飾りもこの日まで飾り、幼稚園の飾りもすっかりかたづけ、新しい学期の準備も済みました。ちゅーりっぷ組さんはいよいよ卒園ですね。新しい環境になじめるのか子どもたちも心配している子、ワクワク期待に胸を膨らませている子と色々でしょうね。幼稚園と小学校の連携が必要と言われていろいろ模索しています。たんぽぽ組ゆり組さんもお兄さん、お姉さんになります。どんな成長を見せてくれるのか今から楽しみです。

**今月の聖句について**

バルティマイという名前の目の不自由な人がいました。かれは毎日、道ばたで物乞いをして暮らしていました. 社会保障のない時代にどうにか人々のお情けで糊口を凌いでいました。こんな生活をしなければならないのは何故だろうか。神はわたしをお見捨てになっているのだろうか。人々から厄介者扱いをされて、わたしはこの先、生きていく意味があるのだろうか。自問自答の日々であったのです。しかし彼は神を信じる信仰を捨てることはありません。きっと神はわたしのこの生活を変えてくれるハズだ。その思いが彼を生かしていたのかも知れません。ある日のこと、いつものように道端で物乞いをしていると、いつもと雰囲気がまるで違うことに気がつきます。イエスがこの町にやってきた。人々はイエスを一目でも会いたいと駆け寄ります。バルティマイも必死に叫びます。「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」多くの群衆が彼を制止しようとしますが、彼は叫び続けます。「ダビデの子よ、憐れんでください」ここで二つの説明をしましょう。まずダビデのこという称

号です。救い主はダビデの家から出てくるという神の言葉がありました。だから救い主は“ダビデの子”と呼ばれていました。「ダビデの子よ」という呼びかけは、「あなたは救い主です」ということに他なりません。イエスに対する信仰がここに現れています。次に大切な事が憐れんでくださいと言う言葉です。この言葉はとても大切な、聖書を理解する上で、重要な単語です。この単語のギリシャ語の語源は“はらわた”です。何故憐れみがはらわたと関係するのでしょうか。古代のギリシャ人は悲しみや苦しみにあった人に対して持つ感情を、はらわたがちぎれるような思いになると表現したようです。憐れに思うとは同情するというような意味合いに聞こえますが、聖書の中では他人の痛みや苦しみを共有してはらわたがちぎれるような思いになると考えたのです。なかなか日本語に上手い訳語が見つかりません。日本語でも断腸の思いと言うときに、腸という言葉が使われるのは案外、日本人もそんな感情を持っていたのかも知れません。バルティマイは願います。わたしの苦しみ、悲しみに共有し、寄り添ってくださるのはあなたしかいません。彼は普通に考えれば目が見えるようになることを求めて、癒してくださいと願うのではと思います。しかし彼は寄り添って憐れんでくださいと願いました。ここにも彼の信仰が現れています。イエスは彼の信仰に感心したのです。目が見える以上に彼は孤独ではなく、自分の全てを分かってくださることが自分にとって大切な事だと気付いたのです。私たちにとっても、孤立無援、孤独という事は耐えられないことです。しかし神は私たちをいつも見つめ、いつも憐れみを与えてくださる方です。同情ではなく、はらわたをちぎれるような思いで、私たちと共にいてくださる方です。イエスのあだ名はイマヌエルといいます。神はともにいてくださるという意味です。そんな別名で呼ばれるのは何故か。共にいる神を現実化した方がイエスだからです。どんな事が起こっても、私たちは絶望することなく立ち上がることができる。私たちがどんな生活をしていようとも、たとえ神などいるものかと思う人にも区別することはありません。無条件に神は私たちを愛してくださる。倒れても立ち上がることができます。それはいつも寄り添ってくださる方がいるからです。

## 八王子復活教会の礼拝

**毎週日曜日**
**聖餐式　　7時30分　10時30分**
**夕の礼拝　16時**

**どなたでもご参加できます。**
**皆様の参加をお待ちしています。**